

シソ科タツナミソウ属 (*Scutellaria*) の新たな分類体系構築の試み



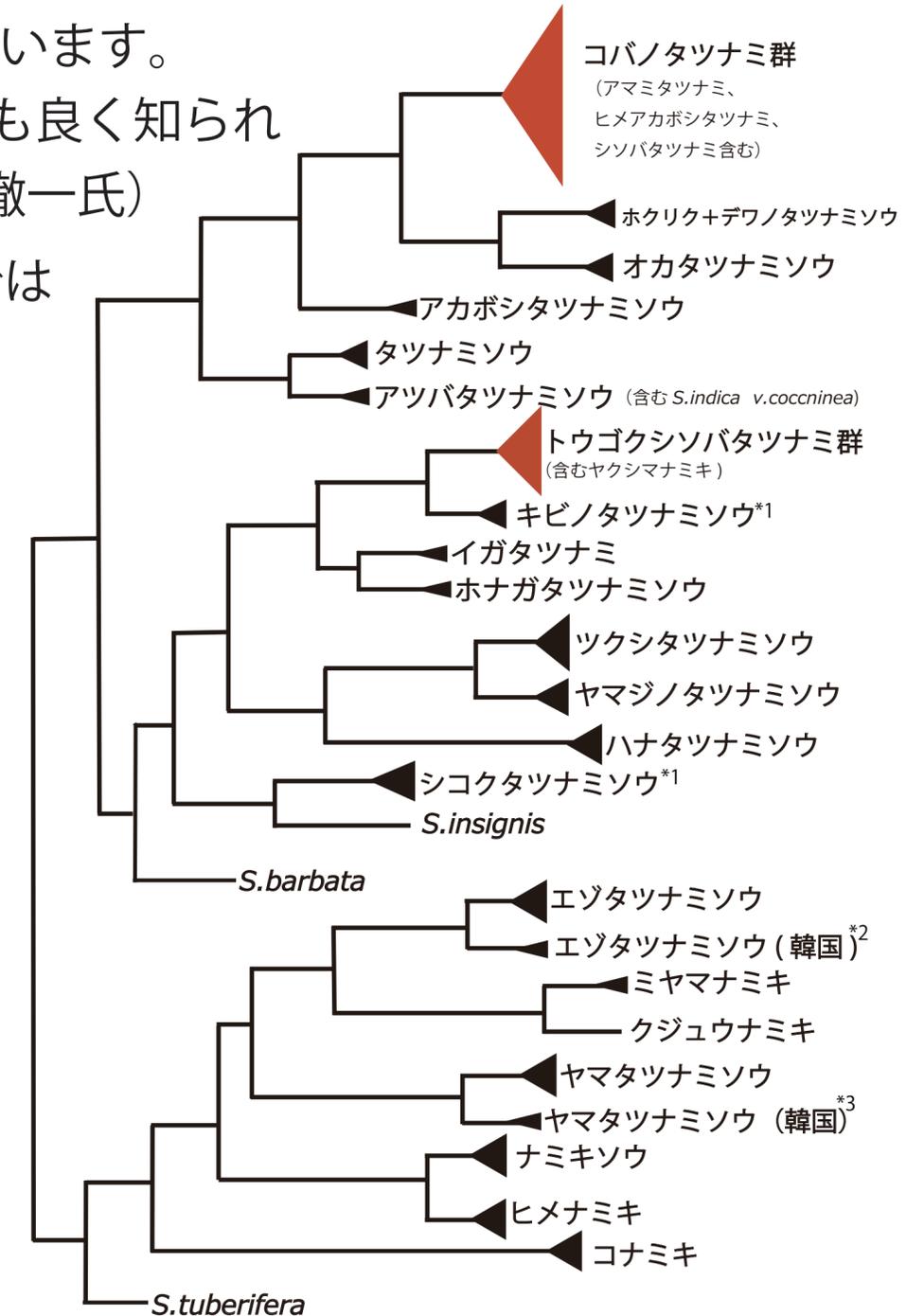
自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

高野 温子

シソ科タツナミソウ属は世界の温帯～熱帯に分布し、360種が知られています。日本には現在19種7変種が知られていますが、分類が難しい植物としても良く知られています。2022年から分担者を務める環境研究総合推進費（代表：矢原徹一氏）の研究の一環でタツナミソウ属の分子系統解析を行っており、解析途中ではありますが、従来の分類体系に修正を要する点が見えてきました。

1つめは、コバノタツナミ群とトウゴクシソバタツナミ群の取り扱いです。コバノタツナミは現在の分類体系ではタツナミソウの変種ですが、タツナミソウとは別系統であることが明らかです。またトウゴクシソバタツナミは現在シソバタツナミの変種ですが、これらも別系統で、シソバタツナミソウはコバノタツナミと同じクレードに入るという結果を得ています。コバノタツナミクレードにはヒメアカボシタツナミやアマミタツナミ等が含まれ、トウゴクシソバタツナミクレードにはヤクシマナミキが含まれます。これらの分類群について、分類学的な取り扱いの変更が必要です。

またホクリクタツナミとデワノタツナミソウも1つのクレードにまとまるため、今後サンプル数を増やしてさらなる検討が必要です。並行して、新たな種認識を支持する指標形質の探索も行います。



*1 新種記載論文投稿中 *2 *S. pekinensis v. alpina* を含む *3 *S. pekinensis v. maxima* を含む